

3分以内でご記入ください。「今日の対談を聞いて、自分は何ができると思いましたか？」

ID   回 答

- 1   本人が何をしたいのか、本人の想いを聞くと
- 2   まずは、何がやりたいかを聞く！
- 3   何気ない声かけ
- 4   傾聴したいと思いました。
- 5   本人と家族の両者を支えつつ、出来ることを一緒に探していこうと思いました。
- 6   やりたい事、本人にあったことを提案していきたい
- 7   相手のペースに合わせてかかわりたい
- 8   一緒に感じ、考え、取り組むこと
- 9   伴奏者になれるようにお話していきたいです。
- 10   話を聞いてあげる大事さ…
- 11   普段の診療をしっかりとしつつ、積極的にこのような会に参加し学んでいく
- 12   何がしたいのか本人様に話を聞くこと
- 13   社会参加への押し付けが良くないことがわかり何がしたいのか聞き出しサポートをしたいなと思いました
- 14   ご本人の気持ちを聞く、心の声を聞くことを頑張りたい。
- 15   作業療法士として、日々対象者の方と関わる中で、こうしなければならないという押し付けになってしまっていたと思います。支援より伴走、この言葉を改めて心に刻み込みます！
- 16   既製品でなくオーダーメイドでの支援が必要だなと感じました。寄り添うことが重要と認識できました。
- 17   ご本人やご家族のお話を聴かせてもらうこと
- 18   ご本人の話をまずはよく聴く。
- 19   一般的に思う枠にはめられた支援ではなく、その人が本当にしたいと思っていることを実現するために伴走したい
- 20   当事者の方の話を聴く。寄り添う。一緒に考えていく
- 21   お話を聞くこと
- 22   本人や家族の想いを聞き、一緒に考えること
- 23   まずは今何がしたいか、聞くことに徹することをしたいと思います。
- 24   高齢者や若年性認知症問わず、伴奏者として、寄り添いたいです。
- 25   伴奏者になること。一緒に楽しむこと。楽しいことを考えたり工夫するのが楽しいです。
- 26   押し付ける社会参加でなく一緒に考える。話をきく
- 27   若年性認知症の支援として、こんなサポートがあると、周りの人に伝える/拡めること。
- 28   まずその方の話をじっくり聴いてみる。今の気持ちを少しでも引き出せるように。
- 29   押しつけではなく、伴奏支援とはを考えながら一緒に楽しい時間を過ごせればと思います
- 30   地域におられるかもしれない若年性認知症の方や高齢の認知症の方が必要とされていることを聞き、小さなこと（道案内等）でも実践していきたいと思いました。

- 31 当事者の思いにふれる、聞くことから、今の自分の考えや仕事の振り返り、活かしていきたいと思いました。
- 32 話をよく聞き寄り添うこと
- 33 伴奏者としての寄り添い。一緒に考えて楽しむ事。
- 34 困った時や相談したいときに一緒に考えること
- 35 一緒に考える、側で話を聞く、否定をしない
- 36 支援と言いながら本人の意見を無視していろいろと押し付けているような気がします。なにかしてあげなきゃと思いつの間に上から目線になってたかと。まずはしっかりと向き合い気持ちに寄り添い話を聞くことから始めていきたい。
- 37 支援しようと思うのではなく、まずはしたいことを聞くこと。
- 38 その人にとっての、を中心に考える。今、叔父のサポートをしていますが、介護保険の枠に当てはめようと知らず知らずのうちにしてるので、そうでないことを話したい。
- 39 固定概念をもたず、お話をゆっくり聞かせていただきたいと思います。
- 40 介護保険の支援者は、初期の方に関わる術がないです。介護保険の規制緩和をすすめてもっと柔軟に動けるといいと思います。
- 41 普段接している高齢者の認知症とは違うと理解して接する
- 42 現在の対象者は高齢者ですが、支援は提供者でなく伴走者であるべきとの話が印象的でした。利用者主体の支援を探って行きたいです。
- 43 自分に何が出来ると言うこととて、怖い事だと思いました。頭で理解。共感していても、心が過剰してしまうのではないかと、緊張感。当事者の方から一緒に何かを楽しむという感覚をお話しいただき、ご本人のやりたいに共感、寄り添う事が出来るのだと思いました。
- 44 構えることなく関心を持って、一緒に話したり楽しんだり、悩んだりできるかなと思います。
- 45 若年性認知症の人と関わった事はないが、関わる時の心構えが少しわかった
- 46 誰にとっても「今」は大切ですが、若年性認知症のかたの今、家族(子どもたち)の今は、より大事にしていきたいと思いました。何ができるかわかりませんが向き合って行きたいで。
- 47 押し付けることなく希望をひきだす関わりをしたいです
- 48 本当は何がしたいかという事に思いを向ける
- 49 まだまだ勉強していかないとしました。
- 50 支援はやめて、どうしたいか、どうしてほしいのかとか、本人の気持ちを知るよう、何をしなくても、同じ時間を共有する
- 51 本人がやりたいことが見つかるまで寄り添い、伴奏します。
- 52 デイサービスで介護士として働いています。ご利用者様のやりたいこと、楽しみを見つけて、楽しいから行きたいと思ってもらえるよう考えていきたいです。
- 53 本人、家族の話をとにかくじっくり聞く事。聞き手に徹する。
- 54 介護保険などに目を向け過ぎているのですが、居場所作りや伴走支援の体制作りを考えたい。
- 55 そばで、話を聴くことは、出来る。
- 56 一緒に伴奏しいっしょにたのしむ。
- 57 傾聴を基本に、既存の仕組み以外の提案も出来るように、アンテナをインフォーマルな部分にも張

りたいと思います。

- 58 当事者にとって本当に必要な支援はなんなのか、押し付けになってしまっていたのではないかと考えるきっかけになりました。当事者の方の声を聞く、一緒にその方の今後を考えていきたいと思います。
- 59 ご本人の声を大切に、想いが実行できるようにお手伝いしたいと思います。
- 60 やはり傾聴に傾聴を重ね、受け止め、自分以外の知識だけで留めず、その方、その家族に必要な場所へ繋いでいく事かと感じました。
- 61 若年性認知症ならではの課題はもちろんありますが、支援よりも伴走・同じ立場の人同士が語り合う機会・ヤングケアラーへの支援・意思決定支援、どれも若年性認知症の支援に限らない普遍なことだと強く思いました。
- 62 自分には何もできない。でも下坂さんの一緒に話して考えて繋がりを感じることがうれしいという言葉聞いて、何人ものご利用者の顔が浮かびました。話して笑って、困っていたら手を差し伸べて生活のほんの一部ですが支援できていると思えました。ありがとうございます。下坂さんらしさを発揮してたくさんの方に伝えてほしいです。応援しています。
- 63 ご本人のやりたい事を引き出して、一緒に作っていく事が大切なだと理解しました。又、働きたいと希望される方に仕組みを作っていくのは大変だと思いました。
- 64 まずはしっかり話を聞こうと思った。
- 65 まずは知るということです。今までお出会いしたことがなく、本日はお話伺えて良かったです。
- 66 現在の職場では対象者は高齢者ですが、提供者でなく伴走者であるべきとの話が印象的でした。利用者主体の支援方法を探っていきたい。
- 67 会場では、書けませんでした。支援者であり、介護者です。母は、不安の塊です。介護者でしか知らない言葉で不安は和らぎます。支援者として、心の声を話やすい人で、ありあいたいと思います。
- 68 本来はどんな方にもフルオーダーな支援が一番良いかと思いますが、担当数が多いとある程度既にある流れなどに乗せてしまっている自分に気づけました。何がしたいかご本人の思いを聞いて、伴走することが大切な支援なんだと思えました。
- 69 ご本人と信頼関係を築かないとなかなか本音で気持ちを聞かせてもらえないので、時間はかかるが寄り添ってより良い支援につなげたい。
- 70 どんな方とも対等な立ち場で関わり、悩みを一緒に考えていけるようになりたいと思います。
- 71 支援から入るのではなく、何がしたいのか、何を求めているのか、一緒に考え、寄り添える様心がけたいと思います。一緒に伴走できる様。実際に関わる様になったらしっかり関わりたい。
- 72 ゆっくり落ちついて相手のペースに合わせてかわりたいたいです。
- 73 している、寄り添ってると思い込んでいた。そうではない場合を想定してご利用者と向き合いたい。
- 74 寄り添えるように努力したい。
- 75 認知症の方の支援
- 76 してあげたい事を押し付けない。
- 77 何がしたいかをしっかり聞き、お手伝い出来ることを早急に対応していきたい
- 78 あらためて自分にできることは、今の仕事（支援）を誠実に実践することだと考えます。
- 79 高齢者介護の世界で働く身ですが、若年性認知症の方を支援することもあり得ることを考えて部内

研修会にて学習を深めたいと存じます。

- 80 一般就労への支援
- 81 若年性認知症は、私たちが普段の業務で関わる「認知症の高齢者」とは全く違う事がわかりました。高齢者の場合は、ご本人の困り事と言うよりはご家族や周りの方の困り事が多く、それらに対処する為にサービスが入るという図式です。その方の認知症の進行度合にもよると思いますが、支援の視点をしっかりと変えて関わる事が必要だと思いました。
- 82 ご利用者の、好き、得意を見つける。
- 83 認知症の理解を深める。気づきを大切にする。人との関わりを大切にする。
- 84 認知症の方に決めつけるのではなく、クエスチョンや聞き取りに意識していきたい。
- 85 啓発活動などを通して若年性認知症について知ってもらいたい。